

ULT通信

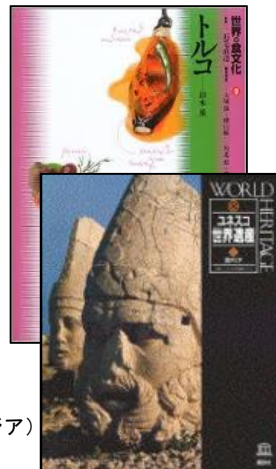
2015. 2. 16号 / vol. 53 発行 / ULT 図書館司書

今年度の ULT 通信はこれで最後！
来年度の ULT 通信は 4 月発行予定です。
「光陰矢の如し」とはいいますが、1 年
経つのが本当に早い(笑) 毎日寒いから、
このまま早く春になってほしいですね。

文化や宗教について。



(世界の食文化 トルコ)



イラクの音楽 (CD です)

(ユネスコ世界遺産 西アジア)

「イスラム」を知る。

【イスラム国 (ISIS)】、この名前を、新聞やニュースで見ない日はありません。あなたは「イスラム」と「イスラム国」の違いを説明できますか？情報過多の現在だからこそ、いろいろなものに目を通し、きちんと自分で考え、自分の意見を持って、見てみよう。

日本との関わりについて。



紛争やテロについて。

最新のニュースをわかりやすく
まとめてくれている雑誌！
オススメです！

ULT NEWS

●悲報！今年の ULT 百選読書マラソン完走者、ゼロ！！！

司書は悲しいです…はじめての完走者 0 人…。来年度はぜひ完走してほしい！今の 1、2 年生には、ハーフ賞 (50 点読破で図書カード 3000 円分) もありますので、完走はハードルが高いと思っている方、ハーフ賞から狙ってみるのはいかがでしょう！参加者求ム！！

新着案内

1月の新着は103点。

一部抜粋で紹介します。

↓ニュースやネットでよく見かけるキーワードがたくさん

タイトル	著者	出版社
ナタリーってこうなったのか	大山卓也	双葉社
ビッグデータ実例でまるわかり!	岡林秀明	TAC出版事業部
キュレーションの時代:「つながり」の情報革命が始まる	佐々木俊尚	筑摩書房
これでわかったビットコイン:生きのこる通貨の条件	斉藤賢爾	太郎次郎社エディタス
メディアと日本人:変わりゆく日常(岩波新書)	橋元良明	岩波書店
メディア・バイアス:あやしい健康情報とニセ科学(光文社新書)	松永和紀	光文社
ソーシャルワーカーという仕事 192	宮本節子	筑摩書房
現代用語の基礎知識 2014	清水均	自由国民社

↓パラエティにとんだ小説やエッセイそろってます!

タイトル	著者名	出版社
ワンダフルストーリー	伊坂幸太郎 他	PHP研究所
鹿の王 上・下	上橋菜穂子 著	KADOKAWA
だいじな本のみつけ方	大崎梢	光文社
陰陽師 天鼓ノ巻	夢枕獏	文藝春秋
狂言サイボーグ(文春文庫)	野村萬斎	文藝春秋
ドラゴンラージャ = Dragon Raja 3・4	イヨンド	岩崎書店
ムーミン谷の彗星 新装版	トーベ・ヤンソン	講談社
タラ・ダンカン 8~9	ソフィー・オドゥッソン = マニコニアン	メディアファクトリー



今月の漫画も

個性派だらけ…→

タイトル	著者名	出版社
総統はヒップスター	ジェイムズ・カー、アルチャナ・クマール 著	共和国
僕はビートルズ 1~10	かわぐちかいじ 漫画	講談社
ドミトリーともきんす	高野文子	中央公論新社

第53回は、笹木萌(メガネ)が担当です。コラムdeリレー。
お題は「出会いの物語」。出会いといえば、やはり恋!

ゴールズワージー作『リンゴの木』をご紹介します。少し昔の、イギリスの田舎町が舞台です。

主人公のアシャーストは、上流階級出身で、大学を卒業したばかり。弁護士資格を持つ、エリート青年です。彼は徒歩で田園を旅行中、昔スポーツで痛めたヒザに痛みがでて、歩けなくなってしまいます。そこで出会う、一人の乙女。まず出会いがしら、「アシャーストは、すっかり乙女の美しさに見とれ、『なんて可愛い娘だ!』と思った」そう。彼女の名はミーガン。アシャーストはミーガンの家に泊めてもらうことになり、彼女への賛辞が書き連ねられます。「彼女の灰色の眼は、すばらしかった。——それは、まるでその日初めて見開いたかのように、露のようにさわやかだった」とか、「あの娘は野の花だ! 眺めるだけでも人を楽しませるものだ」とか、「生まれながらの貴婦人だ! 宝石だ!」とか…。実はミーガンも彼に恋していることがわかり、二人の心は結ばれます。このときのアシャーストの心理描写も、まあ過剰! 「この素朴で、美しい、かれんな、ほっそりとした乙女が、さては、自分の口づけに喜びふるえているのか!」ですって(笑)。

そして駆け落ちを約束し合う二人。アシャーストはお金を用意するため、ミーガンを田舎町に残し、銀行のある都市に出かけていきます。しかし、そこで大変な変調が! 第2の出会いとでもいべきか、新たな乙女が登場してしまうのです! この先の、アシャーストの心変わりは読みごたえ十分。露に例えて賞賛していたミーガンの瞳も、最終的な言い草は、「露は——やがては消え去るものなのだ!」だって。ひくわー。ぜひ読んで、男の身勝手さを勉強してみてください(笑)。

と、俗なあらすじ紹介&感想になりましたが、実は作者はノーベル文学賞受賞者。奥深く、色々な読み方ができる小説でもあります。“文学”はおもしろいですね!

さて、次回のコラムは新年度ということで、「<始まり>を感じる本」をお題にします。